

# 伊勢市教育研究所

# たより



平成 28 年 10 月 18 日  
伊勢市教育研究所  
伊勢市桜木町 5 5 - 1



## 伊勢市教育研究所は桜木町に移転(仮)しました



平成 28 年 8 月 29 日から、伊勢市教育研究所は、旧さくらぎ保育所（桜木町 55-1）に移転しました。

9 月から、「スマイルいせ」の教育相談もこちらで行っており、教育支援センターNESTの通級生も通ってきています。



南側の棟には、スマイル伊勢と情報教育室があります



スマイルいせプレイルーム



相談室



書籍の貸し出しもしていますので、お気軽にお立ち寄りください。



今年の夏季教職員研修講座には、約 1500 人の方が参加してくださいました。参加された皆様が学びを広めたり、深めたりして、実践に生かしていただければ嬉しく思います。

社会の変化に伴い、これからの学校には、様々な課題への対応が求められてきます。教育研究所では、私たち教職員の専門性や実践的指導力を高め、子どもたちの確かな力につながるよう、研修講座をより充実させていきたいと考えています。アンケートに、たくさんのご意見やご要望を記入していただき、ありがとうございました。



## 夏季休業中研修講座報告①

### 授業づくり:算数

細水先生の講座には、約 170 名の方が参加されました。授業会場に入りきれないため、情報教育研究会に御協力をいただき、別教室でも、ライブ中継で授業を参観していただけるようになりました。

明野小学校 6 年生児童を対象に「式と計算」の授業をしていただき、その後、「主体的、協働的な学びを引き出すための授業改善の視点～ちょっとした工夫、さりげない一言が子どもを変える～」という演題で講演をしていただきました。

以下は参加された方から寄せられた声です。



開催日：平成 28 年 7 月 28 日（木）  
講師：明星大学 客員教授  
細水 保宏 先生

- ◆ 今までの授業観が変わりました。
- ◆ 子どもの説明が、子どもの発表によってだんだんと良くなっていく様子が見られました。普段、どうしてもやり方を教師が説明してしまいがちですが、子ども同士が、まず自分で考え、その後友達に教えるという流れが、学び合う姿につながっていくということが、今日の授業を見せていただき分かりました。
- ◆ 細水先生の子どもの心をつかむ声かけ、指導に感動しました。答えを間違えた子、声の小さい子、自分の考えをパッと一言で言う子、そういう子たちへ、笑顔でフォローされていて、クラスづくりの勉強もさせていただきました。
- ◆ 毎年受けさせていただけていますが、毎年学ぶことが多くて楽しい研修です。また来年もあればいいと思います。
- ◆ 細水先生の授業は 2 回目でしたが、やはりすばらしい力で勉強になりました。定期的にしていただけることは有難いです。今後も続けてほしいです。
- ◆ アクティブラーニングという指導法について、十分理解できておらず悩んでいたが、今日はアクティブラーニングに関して理解を深めることができた。
- ◆ 「主体的、協働的」な学びの意味がよくわかりました。

最初は緊張していた子どもたちも、どんどん授業に夢中になっていき、どの子も楽しそうに授業に参加していきました。そして、友だちの意見をよく聞いて、自分の考えを深めたり、意欲的に伝えようとしたりする姿がみられました。

細水先生は、子どもの発言に対して、よく、「えっ?」「本当に?」と聞かれます。そう聞かれると、子どもたちの表情は、とたんに真剣になります。他の子どもたちも、友だ

ちの意見について、しっかりと考えはじめます。そうして、「だってね・・・」と、論理的に根拠を話し始めるのです。講演会で、細水先生は、こう教えてくださいました。

『いいですか?』って聞いちゃだめですよ。先生たちは間違っている時は『いいですか?』って聞かないから、子どもはこう聞かれると『いいです』って答えて、考えなくなってしまいます。

今、教育のキーワードとなっている「アクティブラーニング」「問題発見力」「問題追究力」「主体的、協同的な学び」についても、細水先生は、分かりやすく説明をしてくださいました。また、子どもへの言葉かけ、宿題の出し方、板書の仕方、ノート指導等の指導技術や、「めあてと振り返り」について、大変具体的に教えてくださいました。

「わかった人？」と聞いて、「はい！」と最初に手を挙げた子を指すのではなく、ベテラン教員は、その時「できない子」を「どこまでできているのか」見ています。

教師のちょっとした一言は、価値付けになり、広がっていくんです。中途半端な褒め方でなく、具体的に価値づけることが大切です。  
「どんな授業を、どんな子どもたちに」という、望ましい姿を持つことが大切です。



## 学級づくり「互いに認め合い高め合う学級集団づくり～人の中で人は育つ～」



開催日：平成 28 年 7 月 26 日（火）  
講師：高知大学 教育学部 准教授  
鹿嶋 真弓 先生

高知大学教育学部附属教育実践総合センター准教授の鹿嶋真弓先生は、都内公立中学校で、30年間勤務されてきました。「プロフェッショナル 仕事の流儀」というテレビ番組に出演されたこともあります。

現在、様々な学校に出向いて、構成的グループエンカウンターやクラスソーシャルスキルなどを用いた実践により、荒れた学年・学級を、あたたかみのある学級集団・学年集団へと変える取り組みもされています。

講座アンケートに、「具体例や実際の子どもの反応を多く教えていただいたので、『自分もやってみよう』という気持ちになりました。」と書いてくださった方がみえました。鹿嶋先生は、「互いに認め合い高め合う学級集団づくり」について、具体的なシーンを例にあげて分かりやすく話してくださいました。

子どもと教師がつながっていると、子どもどうしをつなげることもできます。鹿嶋先生が学級に関わる際には、まず緊張を下げることから始めるそうです。そして、子どもたちが他者に興味を持つような取り組みをされます。他者に無関心では、温かさも、思いやりの気持ちも生まれませんからです。また、学級づくりでは、互いに『すごい』と思える関係づくりをし、仲間のいいところを無条件に分かっている状態にしていくことが大切であると話してくださいました。

鹿嶋先生は、学級の様子をとらえ、担任の「こんなクラスにしたい」という願いに合わせて、内容を考えられます。講座では、実際に色々なエンカウンターを体験しながら、子どもたちへの言葉かけや振り返りのさせ方を教えてくださいました。また、鹿嶋先生から、持続する内発動機づけや「考え続ける力」「考え抜く力」につながる取り組みについても紹介していただきました。

荒れた学級を「力」で押さえこもうとしていた教師が、力ではなく、子ども自身に自らの行動を意識させることで、状態を改善していった例もあげて話してくださいました。

他人に優しくできるのは、優しくされてきた子どもです。中には、今まで愛情を受けずに育ってきた子どももいます。そんな子どもたちに、私たち教師は、遅ればせながらではあっても、愛情を注ぐことが大切です。

「人の中で人は育つ」ということをしみじみと感じる講座となりました。

### 講座アンケートより・・・

- ◆ 本当に勉強になりました。大満足です。
- ◆ 2時間30分があっという間でした。来てよかったです。
- ◆ 少し工夫するだけで、子どもたちの考え方をプラスに変えることができる、その働きかけの方法をたくさん知ることができて、よかったです。
- ◆ 児童と教師同士が認め合うこと、児童同士が認め合うためには、どのような取り組みをしたらよいのか、具体的にわかり、とても理解が深まった。
- ◆ 互いに認め合い、高め合う学級づくりということで、全ての子どもたちが温かく包みこまれる先生の人格や考え抜いた言葉かけがあるのだなということが、良くわかりました。
- ◆ どうしたらいいのだろうと悩んでいたことがあったのですが、「やってみたら変わるかもしれない」と思いました。

(研修講座の資料より) ※「承認」「ほめること」についてお話しいただきました。

#### 承認

「私はあなたの存在をそこに認めている」  
ということ伝えるすべての行為、言葉

##### 存在承認

- 見る
- 挨拶
- 肯定的な思いを伝える
- 強みを言う
- 名前を呼ぶ
- いいところを伝える

##### 行為承認

- 事実を伝える
- 励ます
- 感謝を伝える

##### 結果承認

- ほめる
- 賞を与える

稲垣友仁「コーチングの3つのスキルを学ぶ 承認」  
児童心理6月臨時増刊、金子書房、2010、P87